

准教授

上村 眞生

■ 学歴

1. 2012年 広島大学博士課程後期 修了

■ 学位

1. 2012年 博士（教育学）

■ 研究分野

1. 幼児教育学
2. 保育学
- 3.

■ 研究キーワード

1. 保育の質
2. 保育者のストレス・メンタルヘルス
3. 保育者の研修

■ 研究課題

1. 保育者のストレスマネジメント
2. 保育者の研修効果に関する研究

■ 担当授業科目

1. 保育原理（前期）
2. 子どもの理解と援助（前期）
3. 保育内容 環境（前期）
4. 保育内容の理解と方法Ⅲ（前期）
5. 保育課程論（後期）
6. 保育内容 総論（前期）
7. 保育内容 ことば（後期）
8. 保育内容の理解と方法Ⅳ（後期）
9. 保育実践演習
- 10.

■ 授業を行う上で工夫した事項

※ 助教・助手については、実習・演習等の指導を行う上で工夫した事項

- | | |
|----|-------------|
| 1. | 授業科目名【保育原理】 |
|----|-------------|

| | |
|----|--|
| | 保育の原理・原則を教授するに当たり、知識の提示に留まることがないように、関連する例題、デ モーションを事前に行い、学生の中でイメージや考え、関心が喚起されてから、教授活動を行った。 |
| 2. | 授業科目名【子どもの理解と援助】 子どもを理解するための理論と方法について、教授した。種々の保育論の解説、学生による発表に 加え、子ども理解のための観察技法、記録法について解説し、観察技術の獲得を目指した。 |
| 3. | 授業科目名【保育内容の理解と方法Ⅲ】 造形的表現技術の獲得を目的として、各技法の解説・実演を通して、保育における表現活動の展開 方法について教授を行った。 |
| 4. | 授業科目名【保育内容 環境】 保育における環境構成の重要性に加え、保育内容「環境」の構成・展開方法を教授した。実践的な 知識・技術の獲得のため、毎時間講義と演習を行い、演習中には直接指導をし、授業終了後は振り 返りのための課題を与えた。各授業前後に各回の目的を提示することによる学習効果が見られた。 |
| 5. | 授業科目名【保育内容 総論】 保育内容に関する最終的な演習科目としての位置付けから、学外での演習や演習内容の充実を図つ た。そのため、実体験に基づく理解の促進が見られるようになった。 |
| 6. | 授業科目名【保育内容 ことば】 保育場面における言語環境の構成、子どもの言葉の発達を促すための保育方法について教授した。 を基にした学びを構築するために、言葉の発達を促す教具の製作等を行い、それを実際に使用する 演習を中心に授業を進めた。 |
| 7. | 授業科目名【保育の表現技術Ⅳ】 保育者として必要な身体表現に関する知識と経験を蓄積することと、乳幼児の身体表現を引き出 す保育環境の構成、指導上の注意点について、演習後に解説し、理解を深めるよう工夫した。学生 の身体活動の経験不足による課題達成困難を訴える者もいたが、授業評価アンケートからも概ね目 標は達成できたと考える。 |
| 8. | 授業科目名【保育課程論】 保育を実施する上で必要となる、カリキュラム論について解説し、保育の中で展開の仕方について 解説した。合わせて、子どもの発達について、学生にプレゼンテーションを課し、定型発達児と障 のある子どもの保育に展開についても解説した。 |
| 9. | 授業科目名【保育実践演習】 保育実践力を養うために総合的な演習を実施した。4年間の学びの集大成という位置づけであり 内容的に非常に多岐・多様に渡っていたため、授業評価アンケートや学生の話から有用性は一定 程度感じているものの昨年同様、「課題の量」については課題である。 |

■ 学会における活動

| | 加入時期 | 所属学会等の名称 | 役職名等（任期） |
|----|-------------------|----------|----------|
| 1. | 2005年6月～現在に至 る | 日本保育学会 | 特になし |
| 2. | 2006年7月～現在に至 る | 日本小児保健協会 | 特になし |

| | | | |
|----|---------------|-----------|------|
| 3. | 2007年8月～現在に至る | 日本保育園保健学会 | 特になし |
| 4. | 2018年5月～現在に至る | 日本乳幼児教育学会 | 特になし |

■ 研究業績等に関する事項（2024年度）

| | 発行又は 発表の年月 | 著書、学術論 文等の名称 | 単著・ 共著の別 | 発行所、発表雑 誌等又は発表学 会等の名称 | 概 要 |
|---------------|---------------|---|-------------|---|---|
| （著書） | | | | | |
| 1. | 2025年3月 | 福岡県保育士会発 連絡帳スタディブック — 一家庭に寄り添う保育をめざして — | 共 | ミネルヴァ書房 | 福岡県保育士会研究部会の3年にわたる連絡帳に関する研究を基に、まとめられた本。日々保育者が連絡帳を書くために必要な内容及び、自主研修教材が附されている。第1部、理論編を執筆。 |
| 2. | | | | | |
| 3. | | | | | |
| （学術論文） | | | | | |
| 1. | | | | | |
| 2. | | | | | |
| 3. | | | | | |
| （翻訳） | | | | | |
| 1. | | | | | |
| 2. | | | | | |
| 3. | | | | | |
| （学会発表） | | | | | |
| 1. | 2024年12月 | Physical Activity Assessment for Daycare Teachers Reflecting Childcare Contents | 共 | 2024 IEEE Global Conference on Consumer Electronics | 幼児の身体活動について、保育内容との関連について検討した。保育内容によってはWHOが推奨する基準を満たすことができないケースがあり、日々の活動について検討する必要があることが明らかとなった。 |
| 2. | | | | | |
| 3. | | | | | |

■ 外部資金（科学研究費補助金等）導入状況（本学共同研究費を含む）

| (1) 共同研究 | | | | |
|----------|------------------------|-------|----------------------------------|-----------------|
| | 研究題目 | 交付団体 | 研究者 ○代表者（）内は学外者 | 交付決定額 (単位：円) |
| 1. | 幼児の身体活動が健康に及ぼす影響に関する研究 | 共同研究費 | ○上村眞生 樋口由貴子 (田中沙織) 原田利枝 | 1,231,000 円 |
| 2. | | | | |
| 3. | | | | |

| (2) 個人研究 | | | | |
|----------|------|------|-----------------|----|
| | 研究題目 | 交付団体 | 交付決定額 (単位：円) | 備考 |
| 1. | | | | |
| 2. | | | | |
| 3. | | | | |

■ 社会における活動

| | 任 期 期 間 等 | 団体・委員会等の名称 (内 容) | 役 職 名 等 |
|----|--------------|---------------------|-------------------------|
| 1. | 2017 年～現在に至る | 指定講師 | 福岡県保育士等キャリアアップ研修 |
| 2. | 2018 年～現在に至る | 研修コーディネーター | 福岡県保育協会遠賀中間地区 |
| 3. | 2020 年～現在に至る | 専門委員 | 北九州市児童福祉施設等第三者評価委員会専門委員 |

■ 学内における活動等（役職、委員、学生支援など）

| | 任 期 期 間 等 | 会議・委員会等の名称 (内 容) | 役 職 名 等 |
|----|--------------|---------------------|---------|
| 1. | | | |
| 2. | | | |
| 3. | | | |